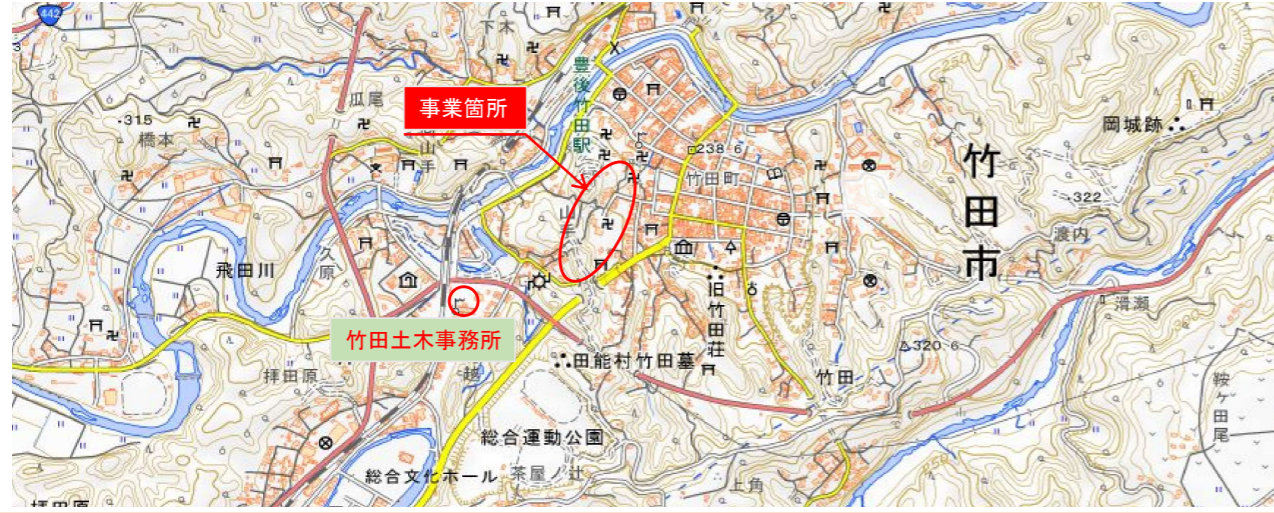
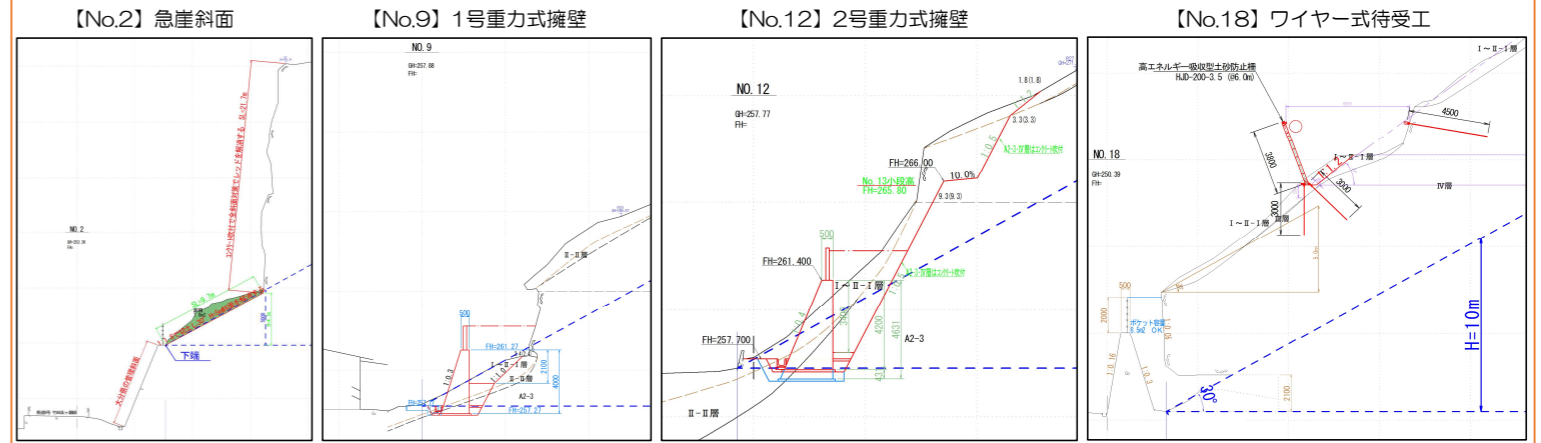


位置図



標準断面図



1. 設計概要

- ①【全斜面対策計画】Aso-3の溶結凝灰岩の急崖斜面をコンクリート吹付工を行い対策する。
- ②【重力式待受け計画】斜面下部に重力式待受け擁壁工を計画する。
- ③【ワイヤー式待受け計画】既設のコンクリート待受け擁壁工の上部にワイヤー式待受け工を計画する。
- ④【流末排水の計画】既設排水路を利用し排水経路を従来と同様の経路とする。

現地条件・課題（施工上の制約、設計のコントロールポイント等）

- Aso-3の溶結凝灰岩の急崖斜面をコンクリート吹付工を行うにあたり樹木の伐採・除去が必要であり、空師等による特殊な準備工が必要となる。
- 市道山川五反切線から中段にあるH $\geq$ 5m・30°の斜面の除去の切土方法について。
- 進入路は寺道隧道出口～稲荷神社の階段下の市道から入り、1号重力式擁壁→2号の順序で施工を行う事を計画しているがその妥当性について。
- ワイヤー式待受け工施工時に資材の搬入・仮置き時に規制が必要である。
- 2号重力式擁壁の上部は立木が覆いかぶさり伐採・撤去が必要であり、撤去時に下部には墓地があり特殊な準備工が必要である。
- 2号重力式擁壁施工時の阿蘇2-3間隙堆積物、阿蘇3溶結凝灰岩に対する掘削機械について。
- 仮設防護柵（2号重力式擁壁部） ※1号重力式擁壁は掘削高が2m以下であり不要?
- 崖錐堆積区間はN値2程度であり、平板載荷試験で支持力不足となった時の対処工法について。
- その他支障物件：家屋、小屋、電柱電線、（水道）

平面図



施工者からの意見および対応方針

○ 改善事項

- 全斜面対策計画
  - ・ 稲荷社背面の急崖斜面コンクリート吹付について
    - 樹木がないため、伐開は不要である。
    - 急崖斜面の整形およびコンクリート吹付施工時に、稲荷社建屋全体の養生が必要である。（単管足場+合板+ブルーシートの養生）
  - ・ No.2横断前後の中段斜面の土砂掘削部（V $\approx$ 150m<sup>3</sup>）について
    - 人力施工は不可であり、市道山川五反切線にクレーン設置してバックホウを吊上げての機械施工となる。
    - 市道山川五反切線に25tクレーンを設置し、0.1m<sup>3</sup>のバックホウを吊り上げる。
    - その際にアウトリガーの張り出しのために、盛土と敷鉄板で平場をつくる。ガードレールも支障になるため、撤去及び再設置を行う。
    - 竹林の伐開面積および土砂掘削における県道8号への流出防止用大型土のうの設置数量を計上する。
    - 県道8号は通行止めとなり、高圧電線の架線があるため保護する必要がある。

■ 1号重力式擁壁計画

- ・ 仮設防護柵について
  - 擁壁最接近位置であるNo.9横断のトイレ箇所のみ土砂掘削用の仮設防護柵を計画する。（H=2m程度、幅5m程度）
- ・ 支持力について
  - 地盤載荷試験により支持力不足が確認された場合は、保全対象⑤敷地内に井戸があるため、改良ではなく置換えで計画する。

■ 2号重力式擁壁計画

- ・ 擁壁背面の樹木の伐開、仮設防護柵およびお墓の養生について
  - 擁壁背面の伐開面積の計上が必要である。
  - 斜面掘削および伐開にあたり、お墓背面の仮設防護柵およびお墓の養生が必要である。（単管足場+合板+ブルーシートの養生）

■ No.18ワイヤー式待受け計画

- ・ 背面の竹林伐開について
  - 保持ケーブルまで、竹林伐開面積の計上が必要である。
- ・ 支柱設置部及び、支柱背面の切土について
  - 切土はワイヤー式待受けの仮設足場の平場を利用、または自走し0.1m<sup>3</sup>のバックホウを切土箇所まで到達させ施工する。

○ 確認事項

■ 工事用道路計画案について

- ・ 市道山川五反切線より保全家屋の進入路から敷地内を通じて、No.9方向への計画を行う。
- 計画案を作成し地権者の承諾を得る必要がある。
- コンクリート舗装で勾配20%程度は登坂可能である。（業者回答）
- 地権者との協議の結果、同意が得られなかったため、市道寺道線よりNo.14方向に進入して施工を行う。

- No.12前後の阿蘇2-3間隙堆積物および阿蘇3溶結凝灰岩の層における切土（勾配1：0.5）の掘削機械は、隣地での施工実績により0.2m<sup>3</sup>のバックホウで可能である。

- No.15～No.20区間のワイヤー式待受け工施工時に、保全家屋への進入路（市道寺道線）の通行規制が必要である。